



介護あんしん 相談員だより

第52号 令和6年7月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員は、ご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きして、客観的な目で見つけた点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。現在18名の相談員が活動しています。



※現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、受入可能な施設のみの訪問をさせていただいております。

お願い

介護あんしん相談員活動に、ご理解をいただきまして感謝申し上げます。
相談員の訪問活動の際には、お茶・お菓子等の接待及び同行等、施設業務の手を取ることはご遠慮させていただいております。

利用者様や介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(令和6年4月・5月)



～利用者様の声より～

利用者：工場見学に行ったのが、とても楽しかった。お土産も貰ってきました。
施設：工場見学は初めてだったかもしれません。高齢者コースで皆さん喜ばれていました。

【鳥栖地区広域市町村圏組合】



こちらの施設へ介護あんしん相談員の訪問は、4年ぶりだったそうです。
入浴から戻られたO様は、いつもは直ぐにお部屋に戻られるそうですが、相談員がいたことで施設での日頃の話をしながら、しばらく一緒に過ごされて楽しまれたようです。
また利用者様は、花見や工場見学の楽しかった話や、卵を割る機械が面白かったことお土産をもらってきたこと等、楽しそうに話されたそうです。
コロナ禍での外出行事については、特に行先や実施内容等、感染対策にとっても気を遣われたようです。「出来る事は限られていましたが、何とかここ数年皆様にも喜んでいただけたと思っています。」とのことでした。

利用者：「リハビリの回数が5回から2回に減った。制度上仕方ないのは分かっているが。」

【施設からのコメント】

相談員さんから「体操等を、生活リハビリの一環だと施設からしっかりアピールすること、少し改善できるのではないのでしょうか。」と助言をいただきました。

談話室での体操や知的活動(計算問題や書字訓練)前の声かけで、生活リハビリは実施していますが、それを訓練として意識してもらえるように、伝え方を工夫しようと思います。

また、麻痺や障害を持ちながらも、手芸や折り紙アートをされている方は、職員さんや知り合いにプレゼントをされていますが、「作品をお披露目する機会を多く設けると、ご本人の励みになるのでは。」と提案をしていただき、施設内で作品の展示の機会を増やし、市町の文化祭への出展を目指したいと思っています。



～介護あんしん相談員の声より～



相談員：フロアに見守り・話し相手の職員さんがおられ、見ていて安心できますね。
施設：介護助手の職員が、入所者の間接的介護を行っています。今後も継続し、安心して生活できるように支援していきます。

【鳥栖地区広域市町村圏組合】



施設では、入浴、排泄介助等で忙しく動き回る職員さんだけでなく、利用者様の近くで見守っている職員さんもうらっしゃるようです。

ヒヤリハットの事故報告では、排泄介助で職員さんが持ち場を離れた少しの間に、他の利用者様が自分で動こうとして転倒につながる事例の報告もあるようです。少ない職員での対応でとても難しい状況だと思いますが、介護助手のような方がいらっしゃることで、利用者様の安心につながりそうですね。

こちらの施設では、嚥下体操をビデオではなく、大きな声で職員さんが一緒にされており、話術を用いて笑顔がたくさん引き出せるように配慮されているそうです。



鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。よろしければご利用ください。